

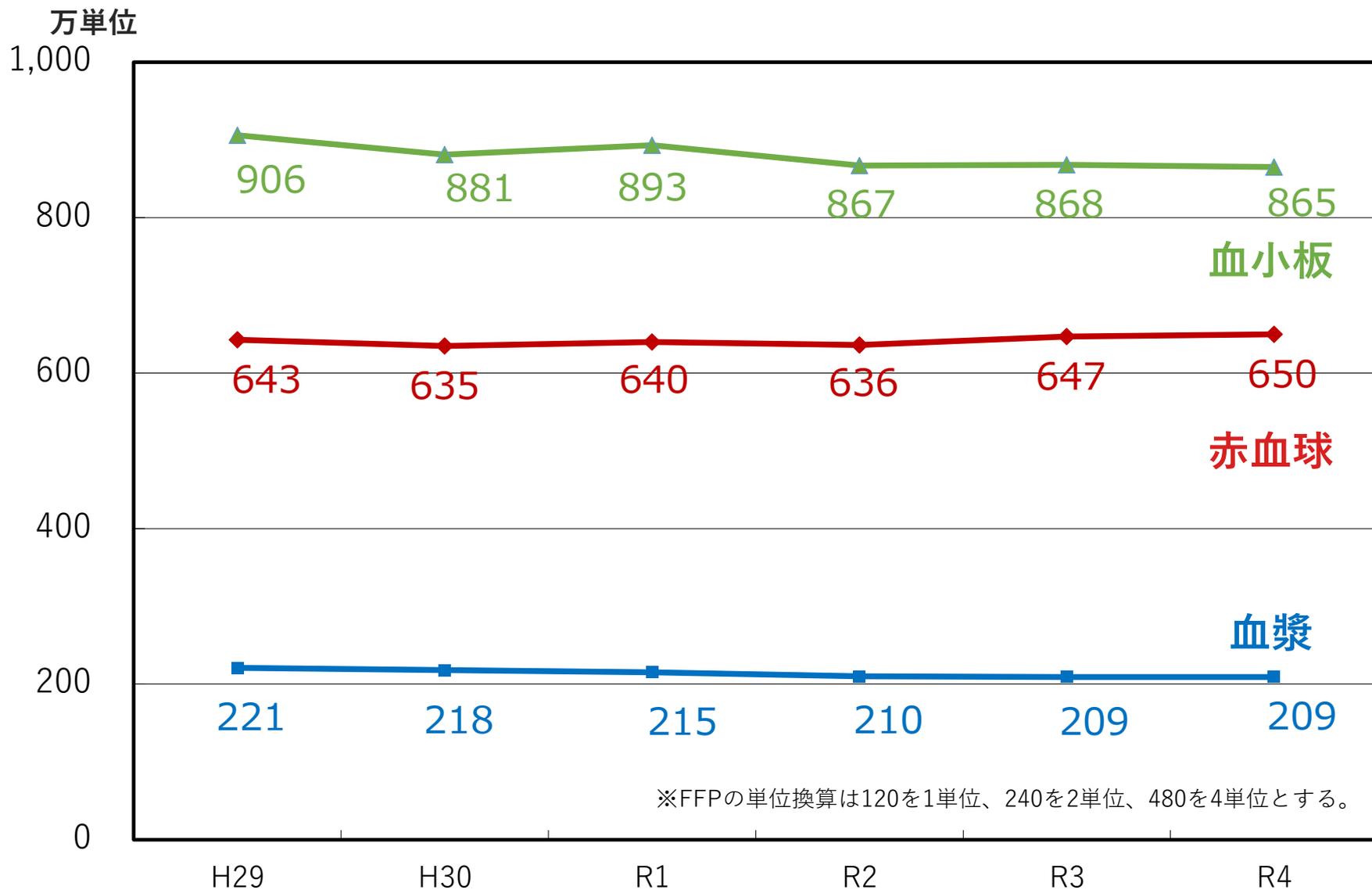
山梨県の現状について －令和4年度－

令和5年度 山梨県合同輸血療法委員会
血液製剤の需給に係る連絡会議

2024年3月26日（火）

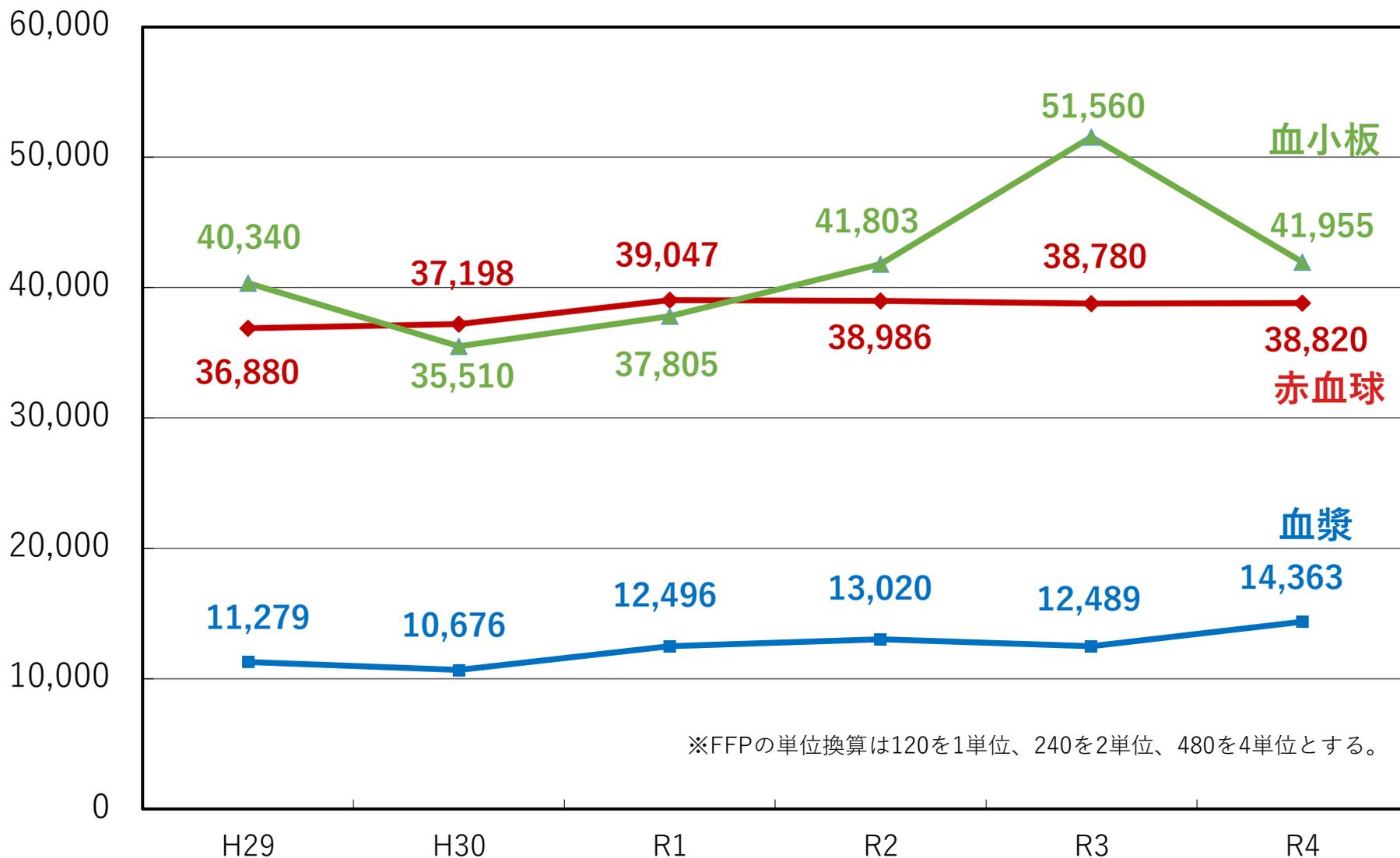
1. 全国及び県内の血液製剤供給量について

血液製剤の供給単位数年度推移（全国）

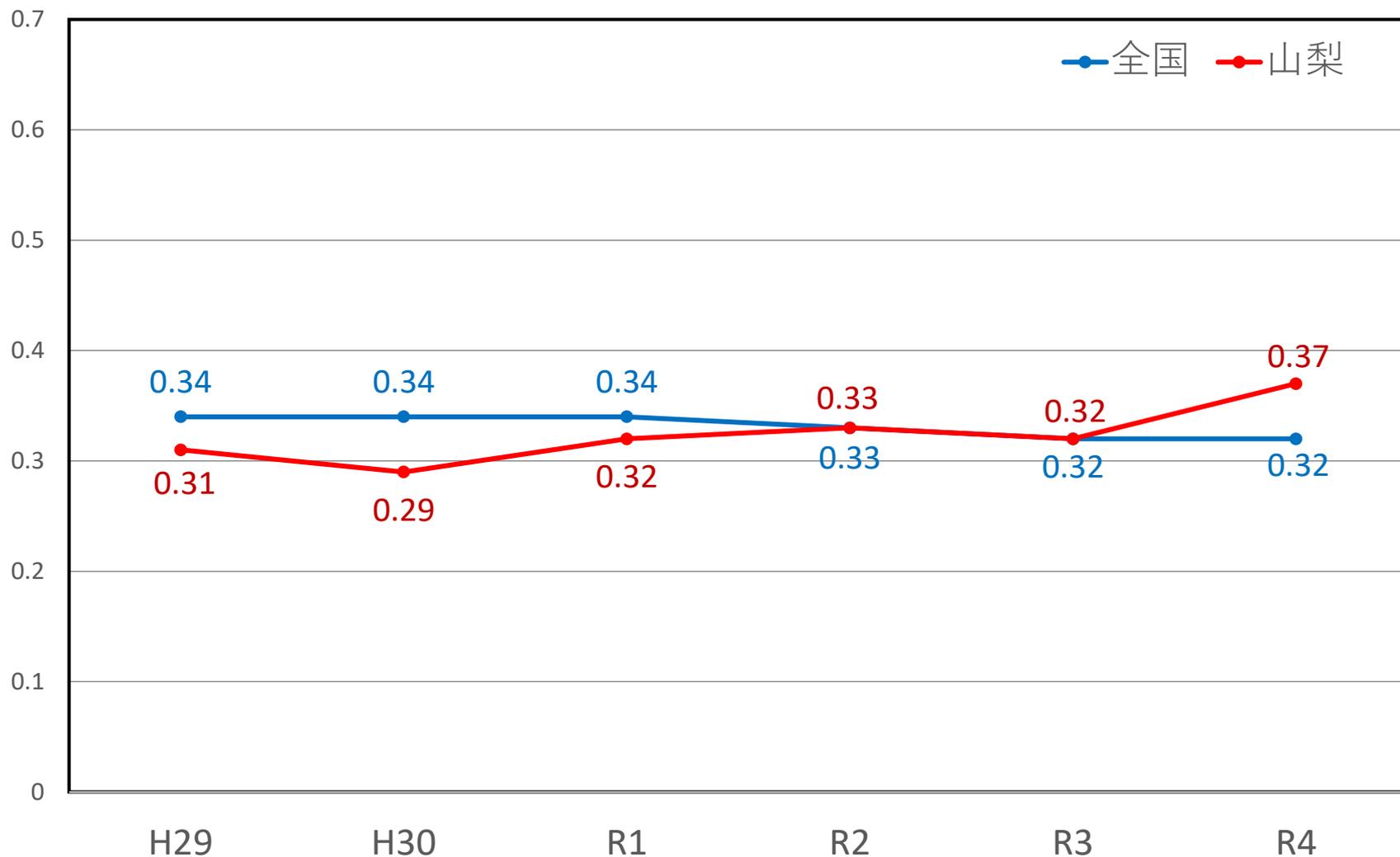


血液製剤の供給単位数年度推移（山梨）

単位



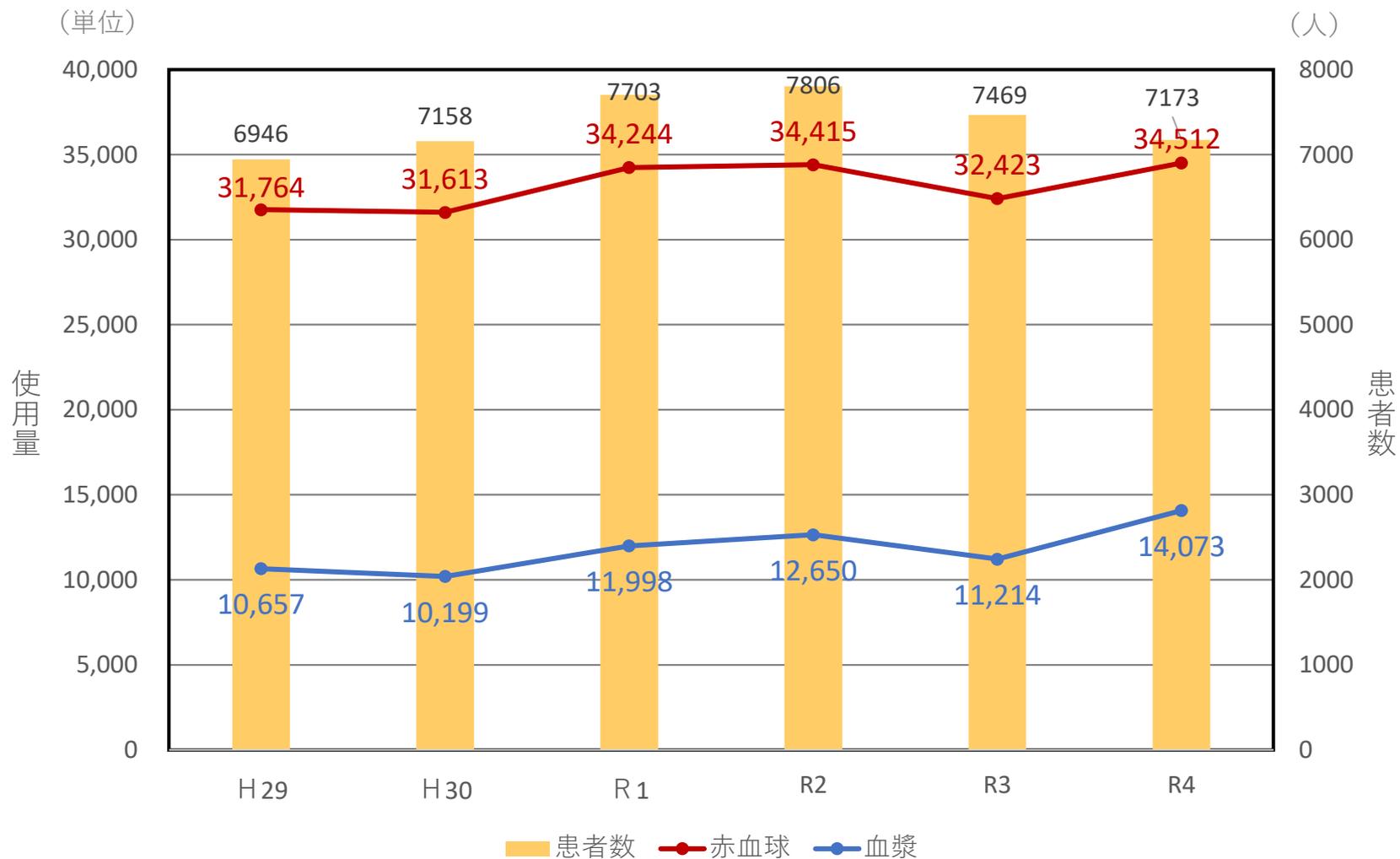
供給量からのFFP/RBC-LR 年度推移



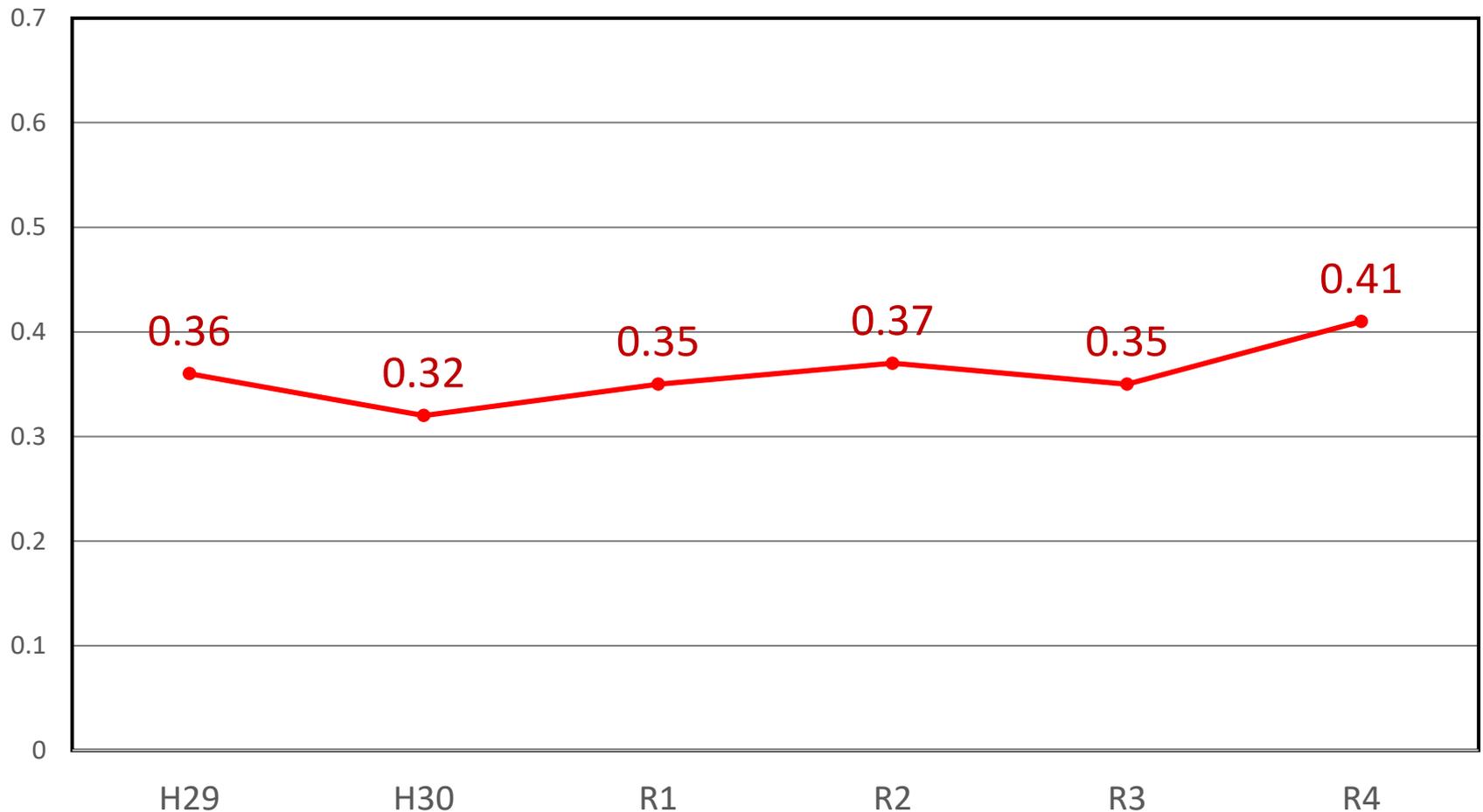
2. 主要25病院の使用状況について

【主要25病院の県内供給量占有率95%】

主要25病院の輸血患者数及び 輸血用血液製剤の使用量年度推移

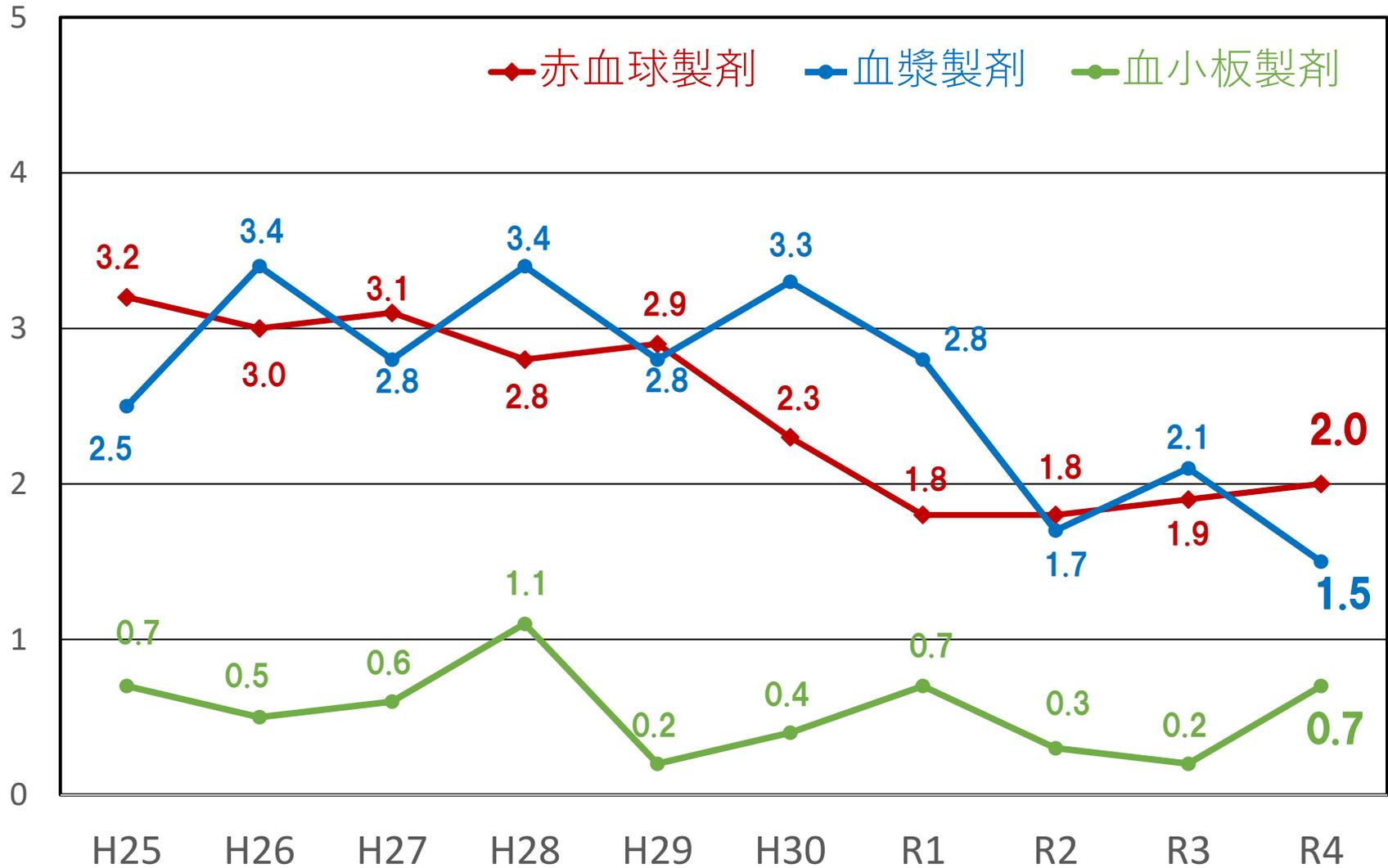


主要25病院の輸血用血液製剤の使用量からのFFP/RBC-LR年度推移



主要25病院の製剤別廃棄率年度推移

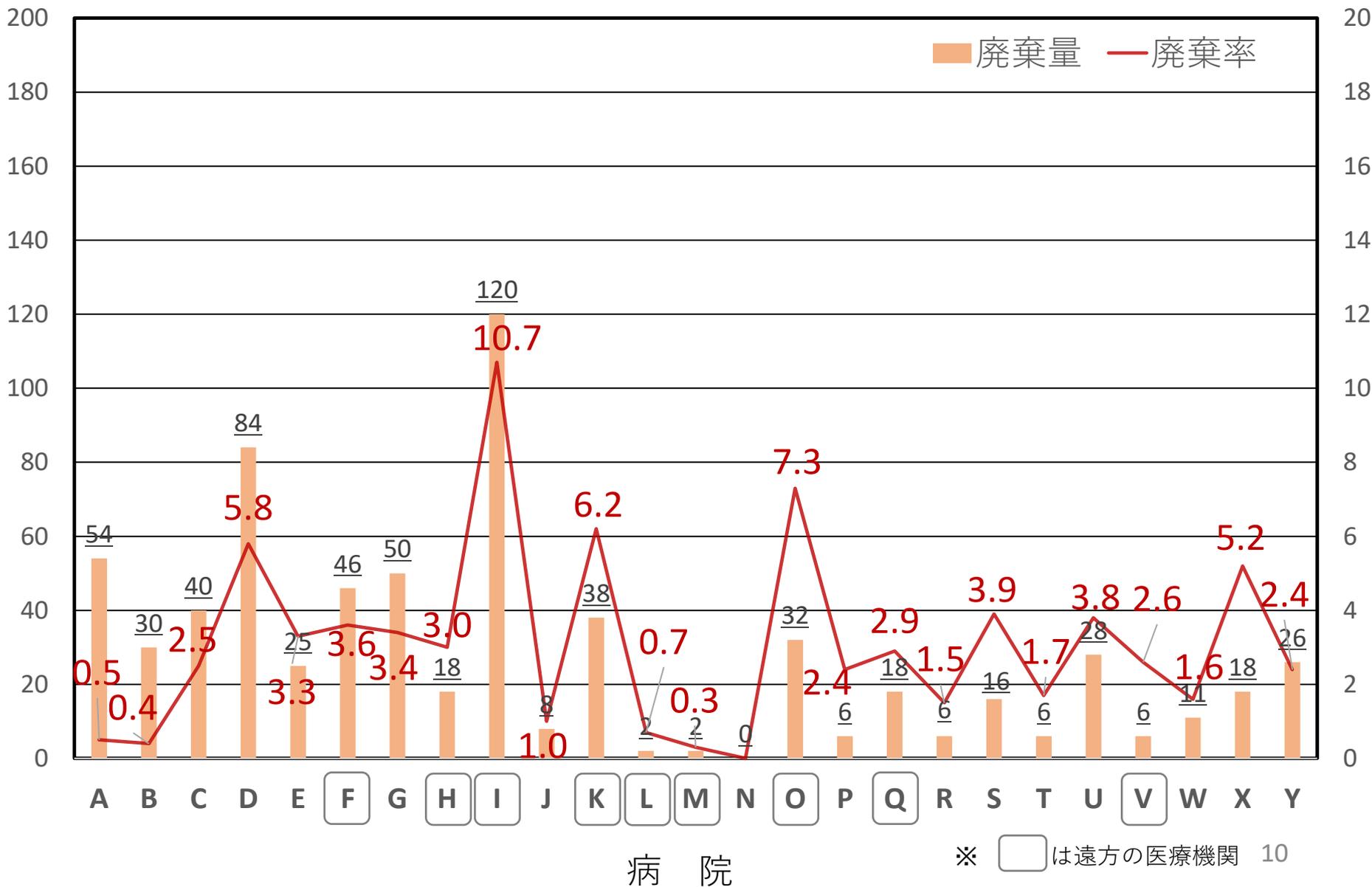
(%)



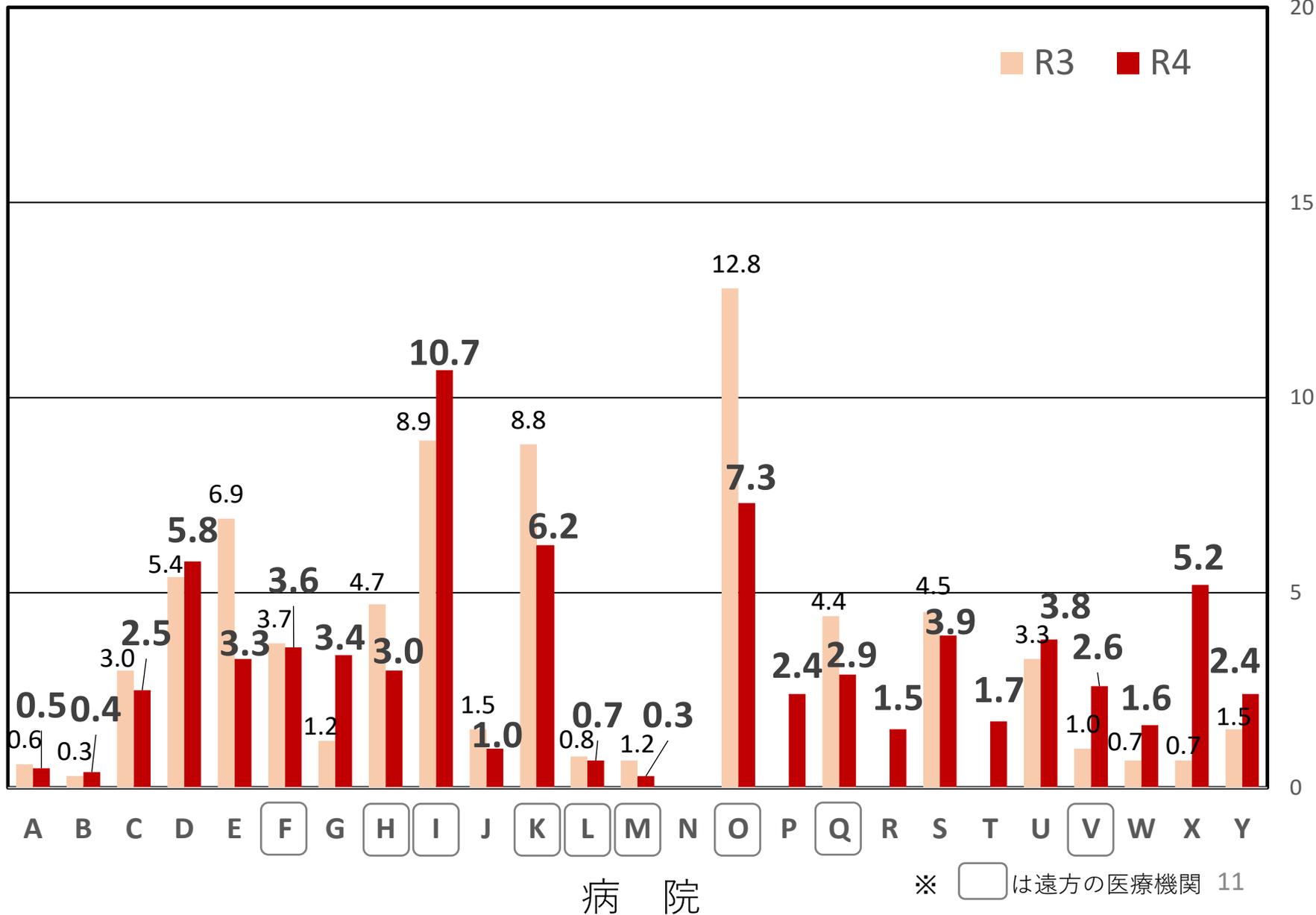
主要25病院の赤血球製剤廃棄量・廃棄率

(単位)

(%)



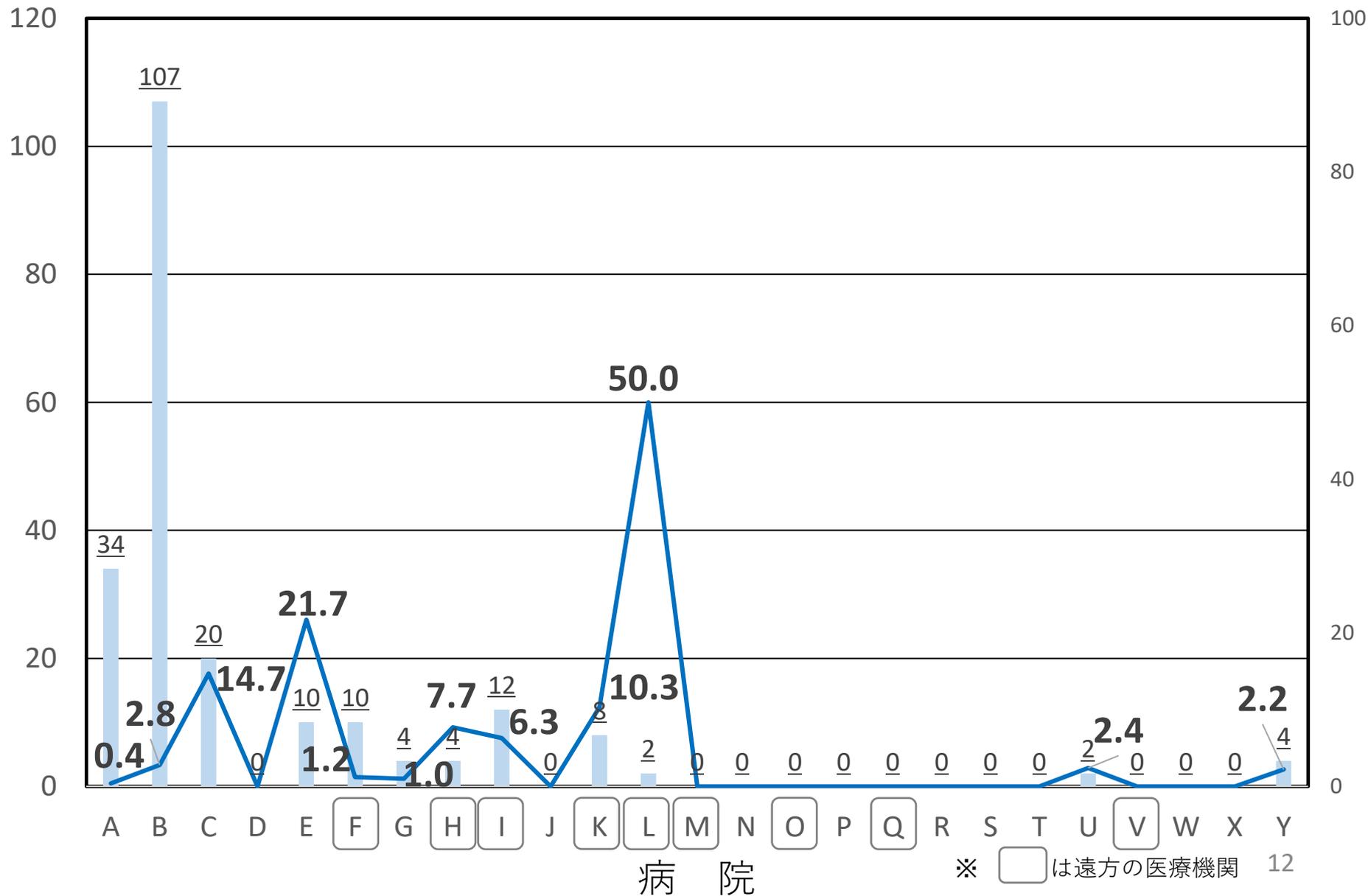
主要25病院の赤血球製剤廃棄率の比較 (%)



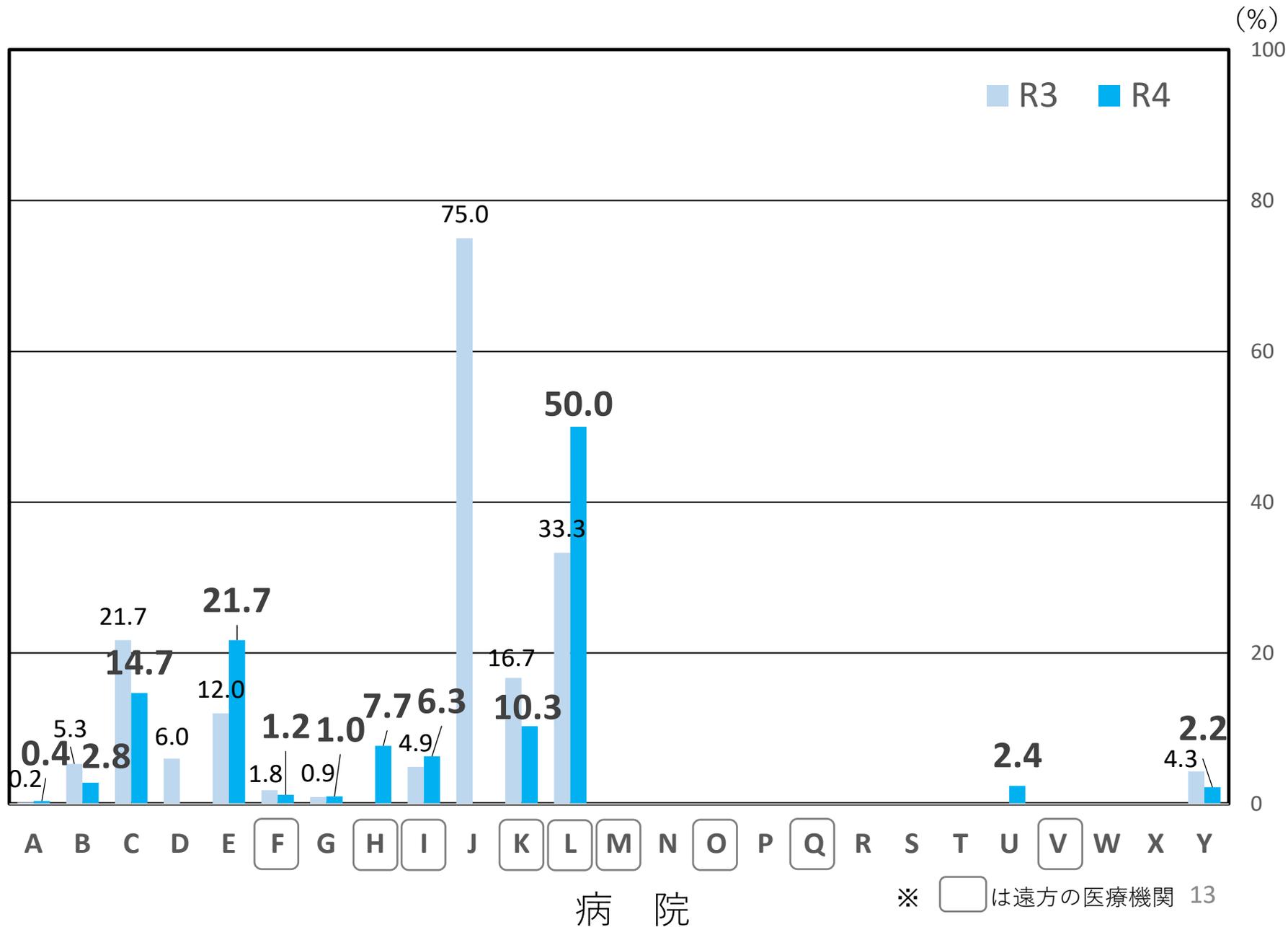
主要25病院の血漿製剤廃棄量・廃棄率

(単位)

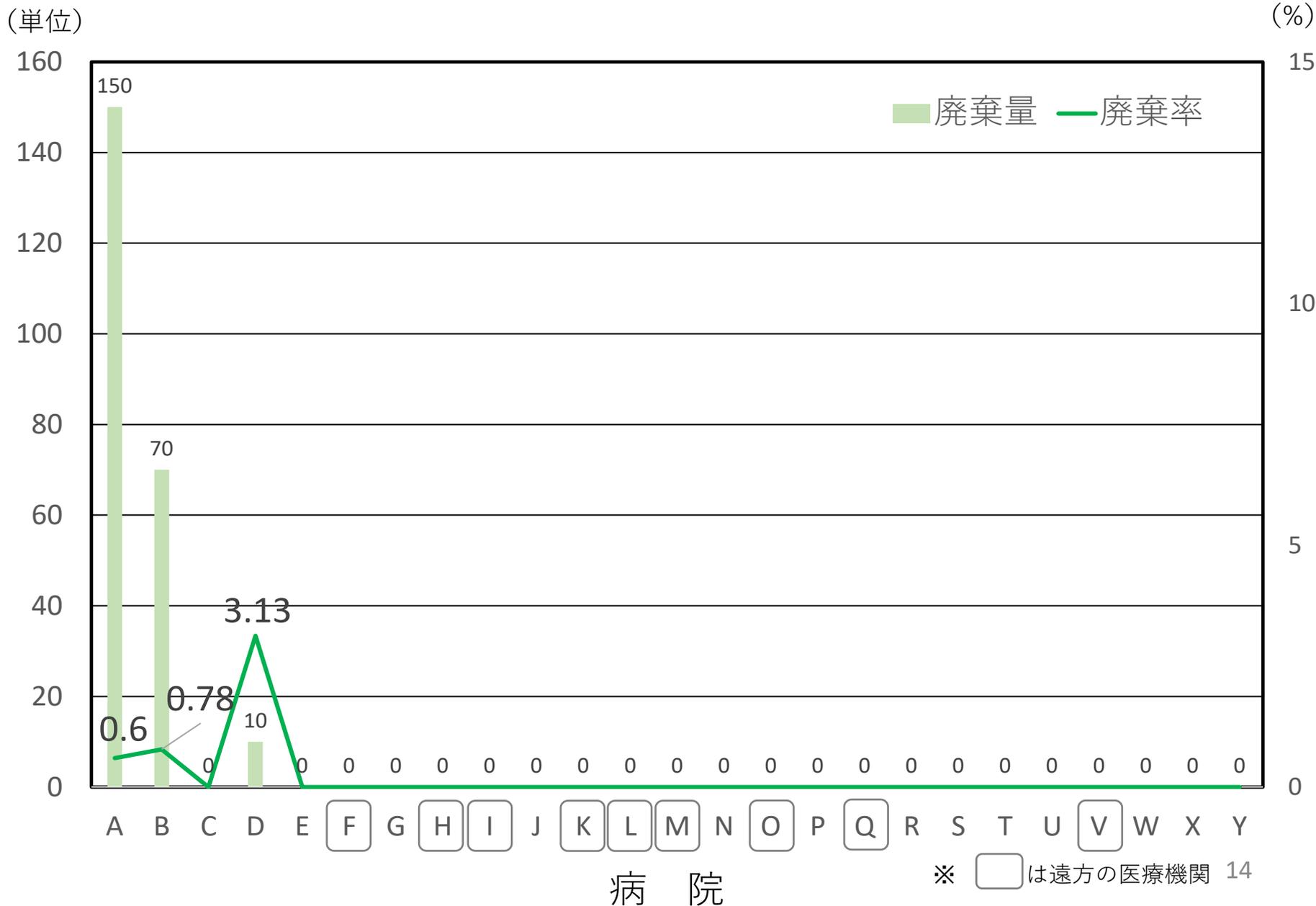
(%)



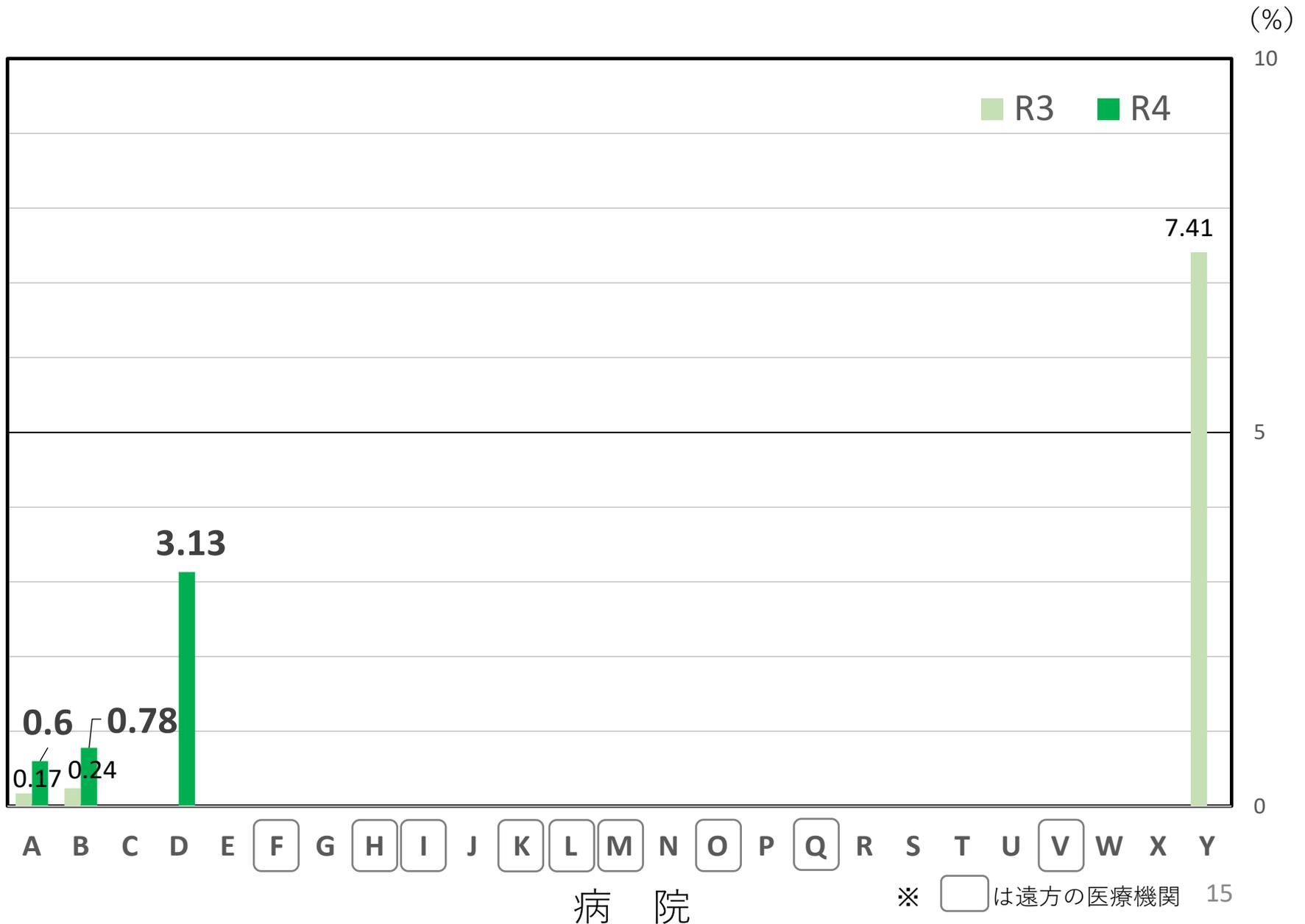
主要25病院の血漿製剤廃棄率の比較



主要25病院の血小板製剤廃棄量・廃棄率



主要25病院の血小板製剤廃棄率の比較



3. 各医療機関の状況について

調査概要

◆概要

過去2年間に供給実績のある県内70施設に対しメールまたはFAXを使用し調査を行った。

◆結果

回収数：48施設（回答率：68.6%、県内供給量占有率：95.%）

※ 2023年6月7日時点の回答内容に基づいて集計。

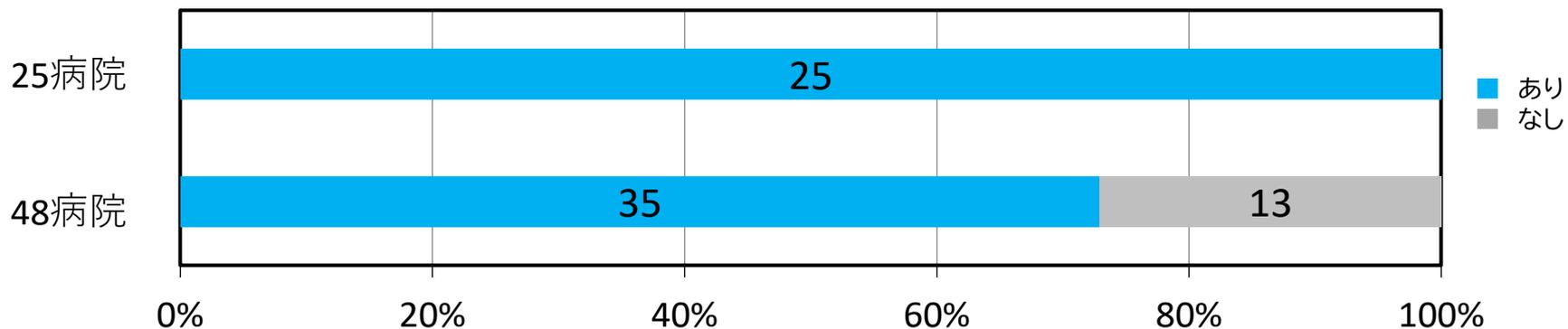
◆調査項目

- ・ 管理料取得状況
- ・ 院内輸血療法委員会及び責任医師の設置状況
- ・ 外来輸血の実施状況及び患者説明パンフレットの使用状況
- ・ 在宅輸血実施状況
- ・ 不規則抗体カード発行状況
- ・ 院内監査実施状況
- ・ 輸血関連インシデントの発生状況

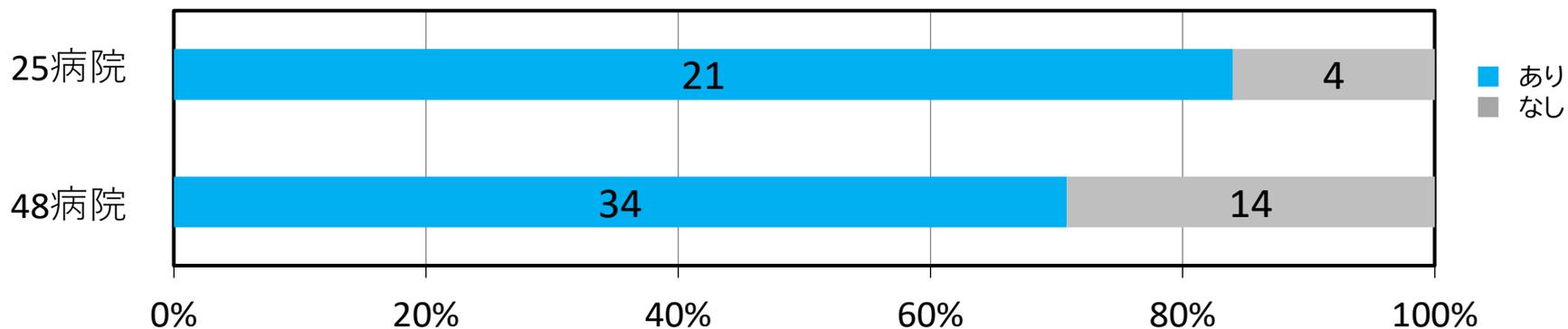
◆輸血管理料の取得状況

	2021年	2022年	2023年6月
輸血管理料Ⅰ	0病院	0病院	0病院
輸血管理料Ⅱ	27病院	26病院	27病院
適正使用加算	15病院	11病院	13病院
貯血式自己血輸血 管理体制加算	1病院	1病院	1病院

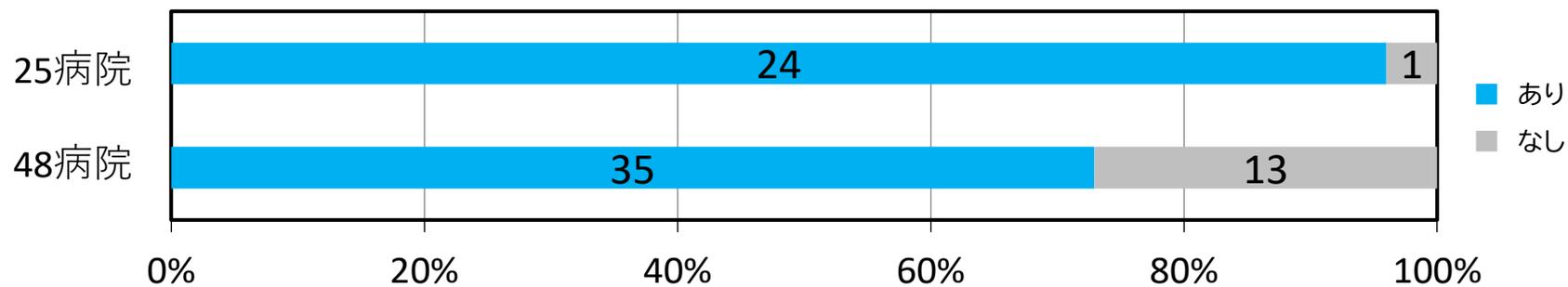
◆院内輸血療法委員会の設置



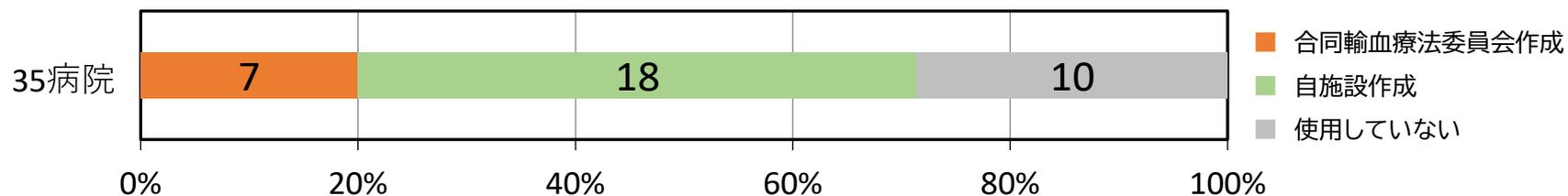
◆輸血責任医師の任命



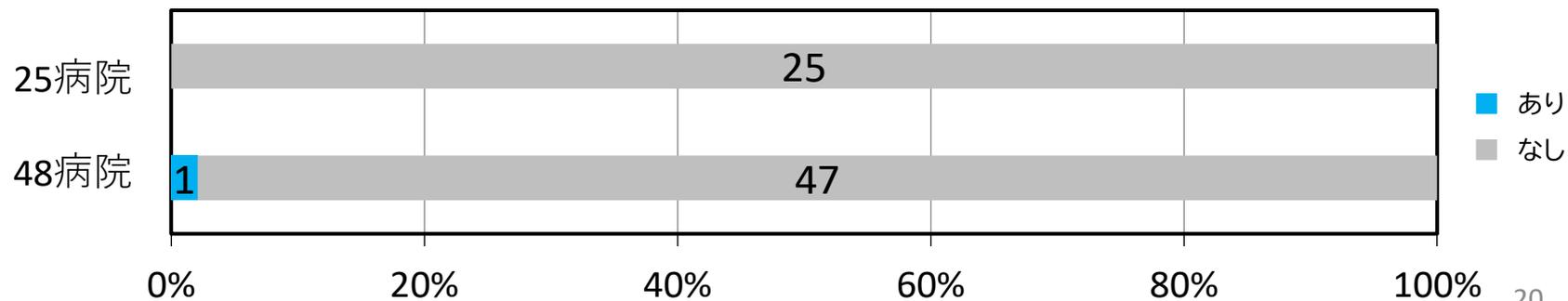
◆外来輸血実施状況



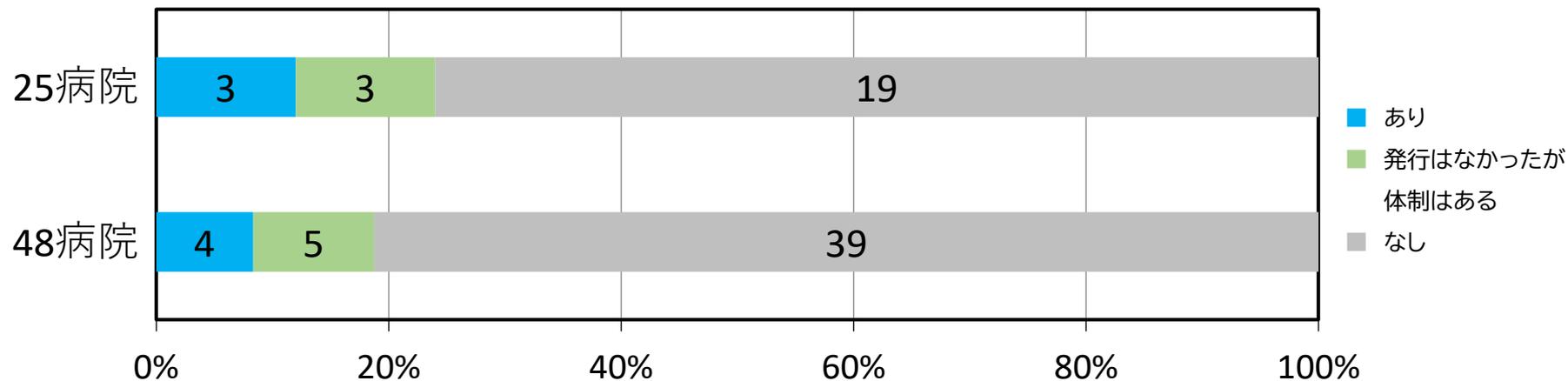
※外来輸血患者説明用パンフレット使用状況



◆在宅輸血実施状況

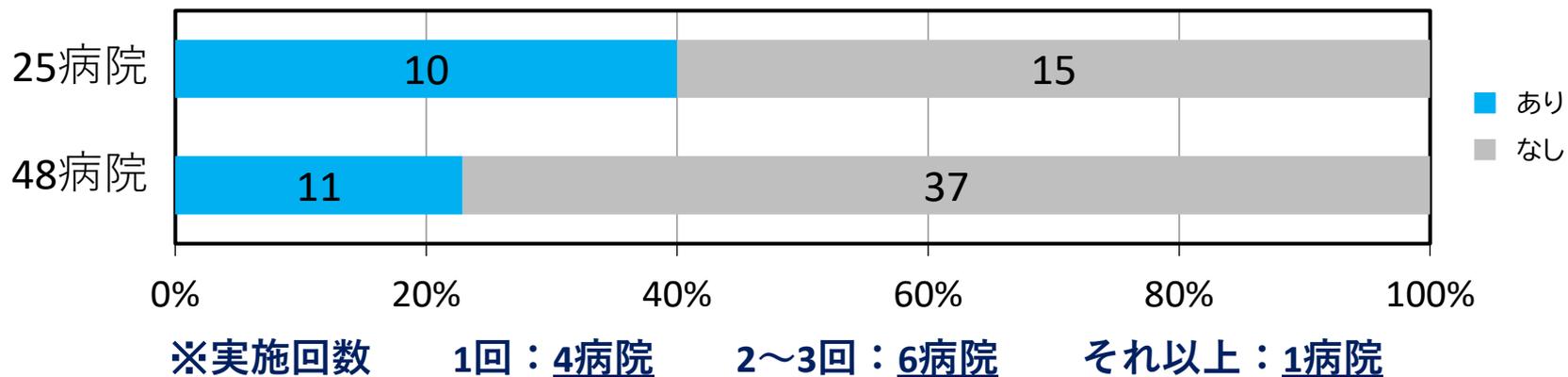


◆不規則抗体カード発行状況

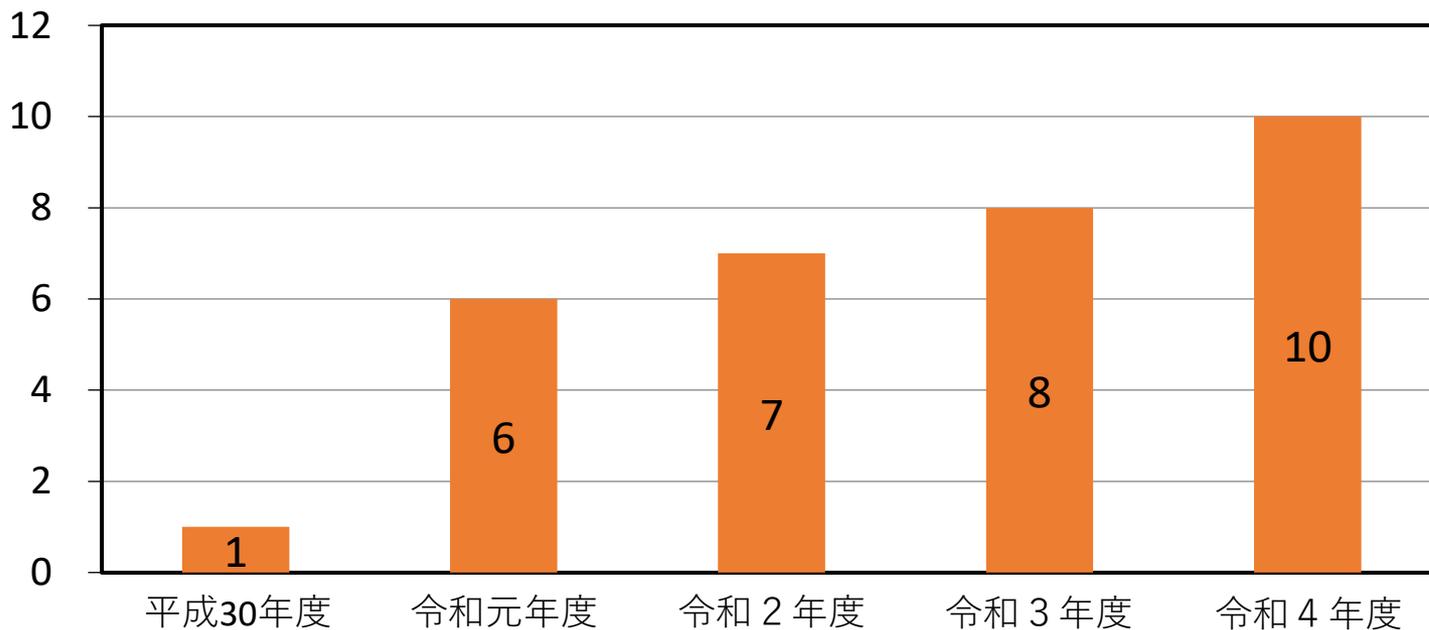


※発行枚数（山梨県版） 0枚：4病院、1～3枚：4病院
（日本輸血・細胞治療学会版） 0枚：1病院

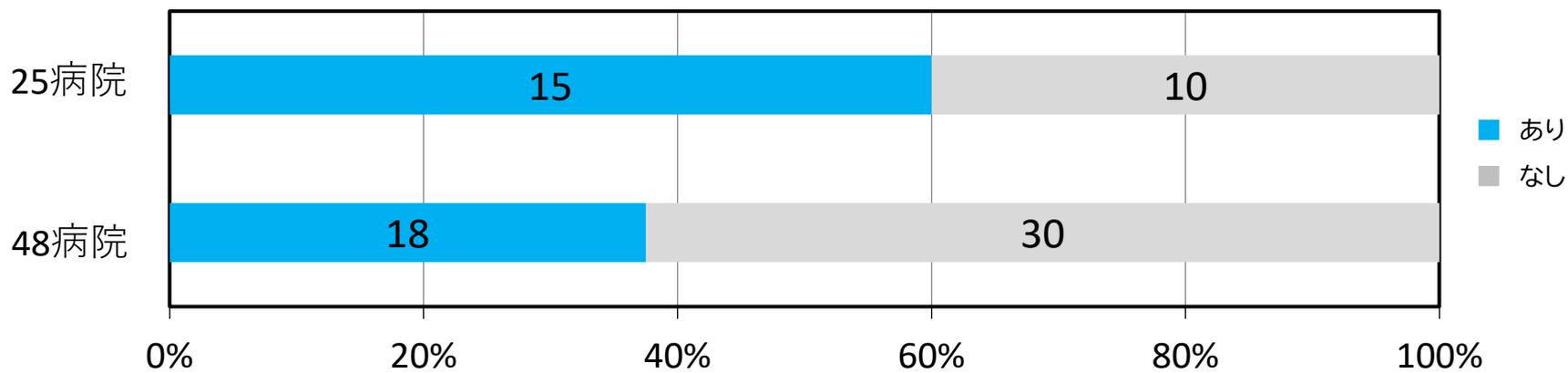
◆院内監査実施状況



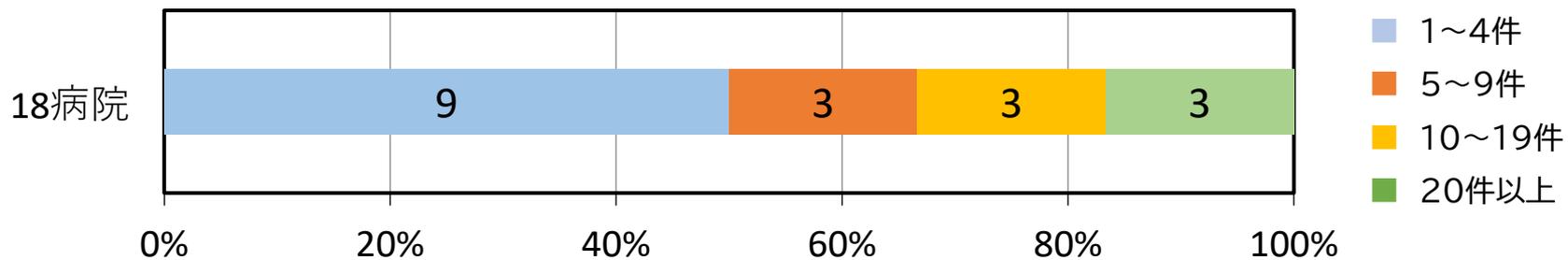
※25病院の院内監査実施状況推移



◆輸血関連インシデント・ヒヤリハット発生状況

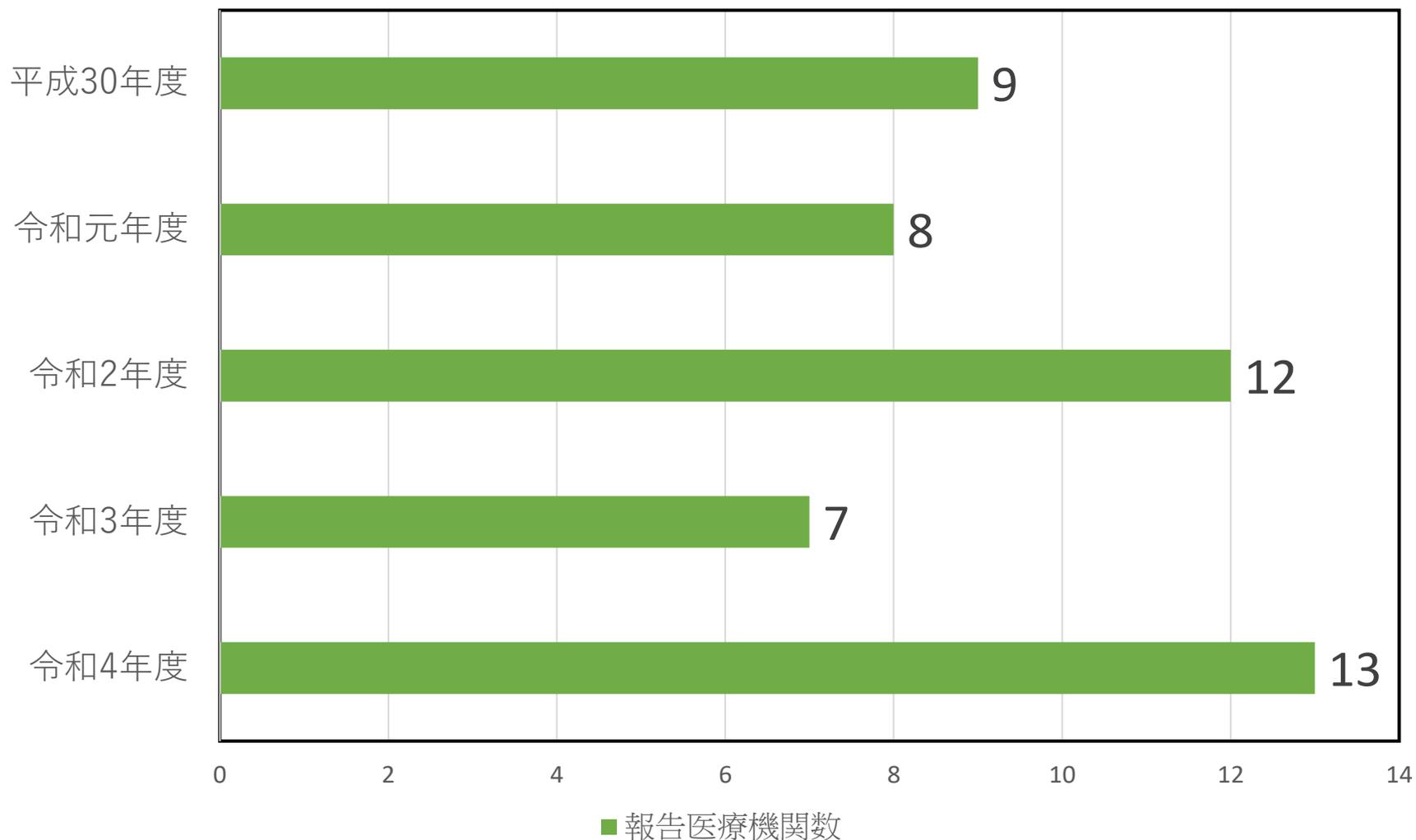


※18病院の発生件数内訳

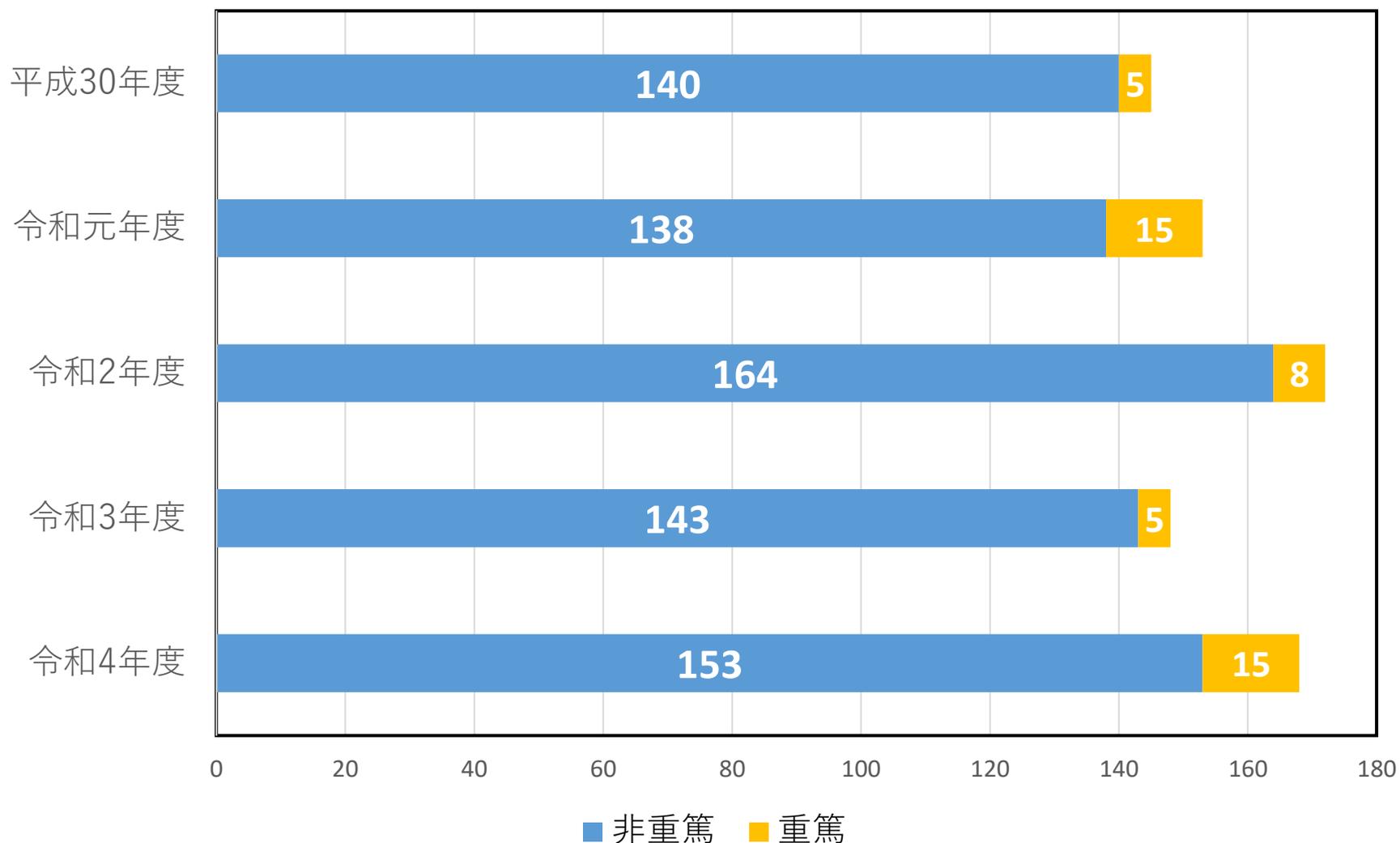


4. 副作用発生状況

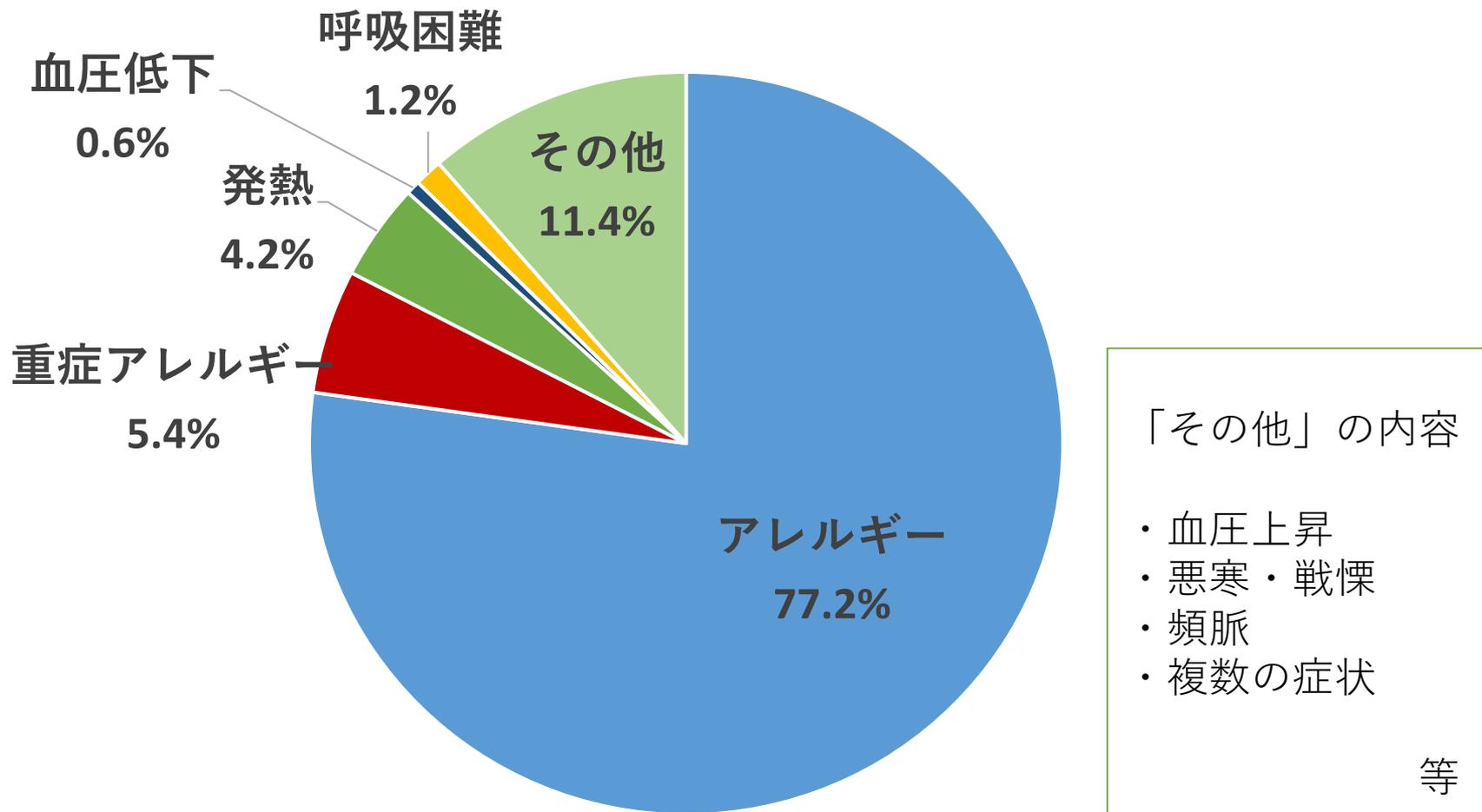
山梨県赤十字血液センターに報告のあった輸血副作用報告施設数の年度推移



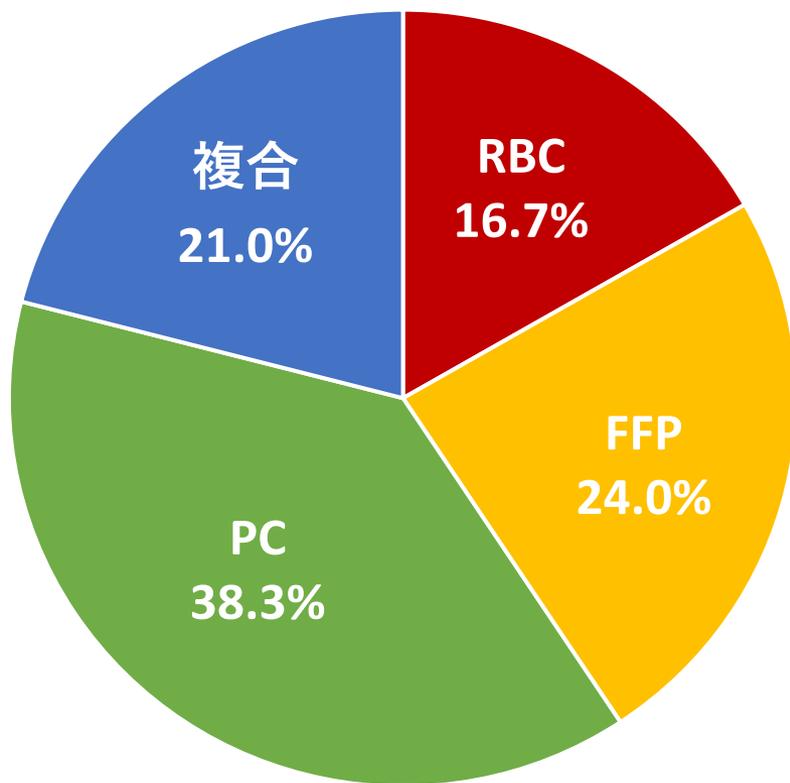
山梨県赤十字血液センターに報告のあった輸血副作用発生件数の年度推移（重篤度別）



山梨県赤十字血液センターに報告のあった輸血副作用の症状別割合



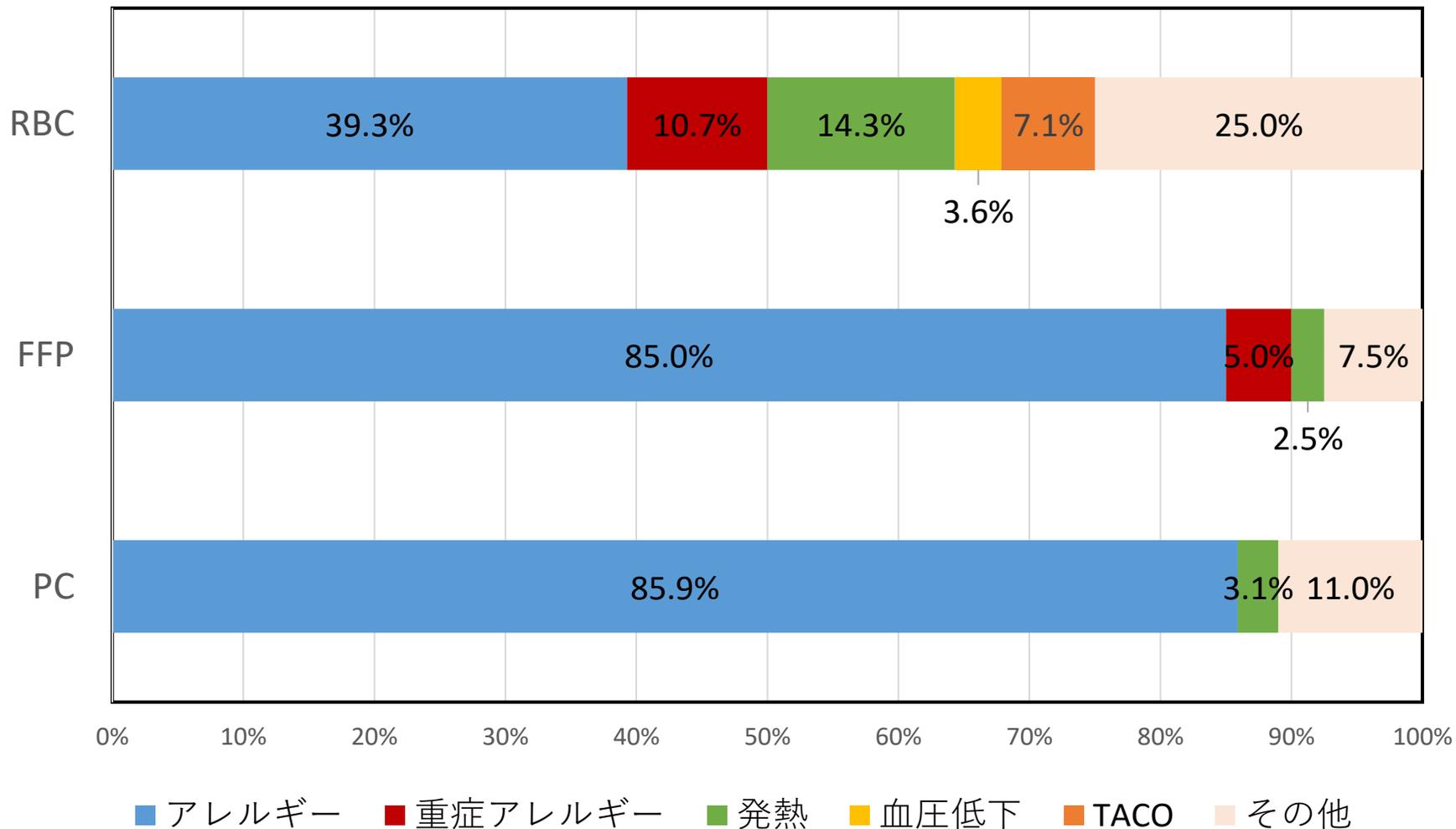
山梨県赤十字血液センターに報告のあった 輸血副作用の使用製剤別発生割合



【供給本数に対する発生割合】

赤血球製剤	0.14%
血漿製剤	0.69%
血小板製剤	1.57%

山梨県赤十字血液センターに報告のあった輸血副作用の製剤別症状割合



【参考】副作用報告方法（山梨）

輸血副作用・感染症発生連絡票(山梨)

FAX 送信日： 年 月 日

医療機関名	病院		科		担当窓口
	報告医名				担当者名
患者氏名	(姓) (名)	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	年齢	歳
原疾患			アレルギーの有無 なし あり ()		
副作用・ 感染症名			発現日	年 月 日	輸血開始から 時間 分
対象製剤名	製造番号		輸血日	発現後の処置(中止・継続等)	
重篤性	<input type="checkbox"/> 重篤 <input type="checkbox"/> 非重篤		転帰	転帰日： 年 月 日現在	
	<input type="checkbox"/> 死亡(副作用による) <input type="checkbox"/> 死亡でないが重篤			<input type="checkbox"/> 回復 <input type="checkbox"/> 軽快 <input type="checkbox"/> 未回復	
因果関係	副作用と輸血との因果関係： <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		<input type="checkbox"/> 死亡 → (死因：)		
副作用の 状況	発熱	なし あり ()	℃ → °C)		
	血圧変動	なし あり ()	/ mmHg → / mmHg)		
	脈拍変動	なし あり ()	/min → /min)		
	呼吸困難	なし あり (SatO ₂ % → %)			
	肺水腫	なし あり (□片側性 □両側性)			
	皮膚症状 その他の症状等	なし あり (症状：)			
感染症の 状況	ウイルス・マーカーの陽転化・細菌培養試験等の状況：				
	輸血前後の検査(参考) HBV：前HBsAg 後NAT、HCV：前HCV-Ab 後HCV-コア抗原orNAT				

宛先 山梨県赤十字血液センター 学術情報・供給課 FAX:055-220-3161

(2版)

【記入方法注意点】

担当窓口：輸血窓口部署（例：検査科）
をご記入ください。

担当者名：輸血窓口の担当者名を
ご記入ください。

発現後の処置：副作用発現後の対応を
ご記入ください。

例) 輸血中止
輸血終了時出現
輸血継続
薬剤投与し輸血再開 等

副作用の症状：なし・ありに○を付け、
「あり」の項目のみ
数値をご記入ください。

その他連絡事項等がございましたら
余白にご記入ください。

【参考】 副作用報告方法（山梨）

【お願い】

- ✓ 発生連絡票は輸血担当窓口の方が記入し電話（血液センター学術宛て）後、**発注FAX番号（055-220-3161）**へFAXして下さい。FAX送信票は不要です。（基本的には平日日中帯対応。）
- ✓ 重篤又は、血液事業本部で重篤と判断された場合には、「**詳細調査票**」と、副作用症状によっては**検体や輸血後の製剤バッグ等**のご提出をお願いする場合があります。「詳細調査票」は担当医にご記入を依頼してください。
- ✓ 非重篤の場合は「輸血副作用調査の終了について」の文書を持って調査終了となります。
- ✓ 副作用が発生した場合には速やかに報告をお願いします。